



EXtra, EXpert and EXtreme EXPRESS--

2009 Vol.
2

宇宙人・秋吉耕佑が前人未踏の2分6秒台に突入! 決勝レースは秋吉の一人旅となるのか!? それとも酒井、中須賀、山口が食らいつくか!?



タイムアップ寸前に逆転してセカンドグリッドを獲得した酒井大作。



JSB 1000
All JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

●予選日:天候/晴れ 路面/ドライ ●決勝コースイン/11:20 スタート/11:35(17周)

2年振りの鈴鹿2&4レースは、初めてSUPER GTシリーズとの併催となった。グラウンドスタンドを始め、ピットビル、リーダータワーなど、東コースがリニューアルされた新生鈴鹿。S字コーナーの景色が変わり、走りにくいというライダーも多かったが慣れてくれば、それも問題なし。東コースは路面が張り替えられ、最終コーナーが走りやすくなった。さらにチェッカーラインが100m最終コーナー側に移動したこともあり最終セクションの区間タイムが大幅に縮まっている。

何と言っても今回の本命はホンダに移籍し、F.C.C. TSR Hondaからスポット参戦している秋吉耕佑だ。事前テストから好タイムをマーク、その時点で区間タイムのベストをプラスすると2分6秒7は出ていたと言う。それだけに、今回の予選では自身の持つコースレコードを更新するのは確実、金曜日の走行でもトップタイムをマークしており、どこまでタイムを縮めてくるかが注目された。

ノックアウト方式で行われた公式予選。50台が走行したQ1では、クリアラップが取れない状態ながら、いきなりコースレコードに迫りトップにつけた秋吉は、Q2では様子見の2番手となる。そして、12台のみが進出できるQ3を迎える。ここで秋吉は周囲の期待に応える走り前人未踏の2分6秒台に突入。セッション終了間際にさらにタイムを縮め2分6秒488という、とてつもないニューレコードタイムをたたき出した。「目標は2分5秒7ぐらいなので、まだまだですね。マシンも詰める部分もあるし、8耐に向けていいベース造りになったかな」と涼しい顔。開幕戦筑波では予選タイヤを伊藤真一、酒井大作が使っていたが、今回ブリヂストンは予選タイヤを持ち込んでいない。秋吉は決勝用タイヤで、この驚異的なタイムを出しているというわけだ。予選日の路面温度は40度を超え、初夏と変わらないほど上がった。路面温度の低いうちは、ダンロップ勢がスタートダッシュをかけやすかったが、昨年の鈴鹿8耐以降はブリヂストン勢もレース序盤からペースを上げてきており、お株を奪う進化を見せている。秋吉と同じくブリヂストンを履く予選2番手の酒井大作、4番手の山口辰也も好調だ。

(中面へ続く)

TIME TABLE

※タイムテーブルは、変更されることがあります。

08:00 - 08:30	JSB1000ウォームアップ走行
08:50 - 09:20	SUPER GTフリー走行
09:30 - 09:45	SUPER GTサファリ
10:00 - 11:00	ピットウォーク
11:20 -	JSB1000 コースイン～選手紹介
11:35 -	JSB1000決勝レース 17Laps
13:05 -	SUPER GTスタート進行
14:00 -	SUPER GT決勝レース 52Laps
17:15 -	サーキットクルージング(2輪体験走行)

JSB1000 Class Starting grid

1	1 R2'06.488 5 秋吉 耕佑 F.C.C.TSR Honda	2	2'07.174 39 酒井 大作 ヨシムラススキwithJOMO	3	2'07.204 1 中須賀 克行 YSP Racing Team
2	4 2'07.260 634 山口 辰也 MuSASHi RT/バルクプロ	5	2'08.025 8 亀谷 長純 Honda DREAM RT 桜井ホンダ	6	2'08.432 33 伊藤 真一 KeihinKoharaR.T.
3	7 2'09.025 62 横江 竜司 RT森のくまさん佐藤塾	8	2'09.053 2 大崎 誠之 SP忠男レーシングチーム	9	2'09.440 87 柳川 明 TEAM GREEN
4	10 2'09.628 56 高橋 巧 バーニングブラッドRT	11	2'11.072 51 高橋 英倫 TEAM GREEN	12	2'13.690 77 武石 伸也 TRICK☆STAR RACING
5	13 2'12.078 17 波多野 祐樹 アサカワスピード	14	2'12.592 32 今野 由寛 MotoMap SUPPLY	15	2'12.660 27 西崎 修 BEET RACING
6	16 2'13.437 31 石川 朋之 Z-TECHwithビジネスリアート	17	2'13.487 30 清水 郁巳 ホンダリームR.T高崎B WISE RT	18	2'13.556 25 鈴木 慎吾 MOTO WIN RACING
7	19 2'13.971 40 大西 敬紀 O・H・MwithDRAGON	20	2'14.303 18 東村 伊佐三 RS-ITOH&ASIA	21	2'14.392 83 須貝 義行 チームドゥカティレーシングジャパン
8	22 2'14.831 64 谷 誠士郎 BMS RACING	23	2'15.079 57 西中 綱 ホンダリーム和歌山	24	2'15.602 49 宇佐見 保弘 チーム・エッチングファクトリー
9	25 2'14.945 221 深見 貴広 クレーバルレーシング	26	2'15.088 61 北口 浩二 NALT	27	2'15.113 52 浪平 伊織 Honda鈴鹿レーシングチーム
10	28 2'15.166 60 矢野 大輔 NALT	29	2'15.645 37 磯谷 晋一 WOLFMAN&SAMTECH	30	2'15.915 36 桐井 有希 BATTLE FACTORY
11	31 ● 48 竹見 升吾 チーム・エッチングファクトリー	32	● 41 向山 将弘 TEAMモトスポーツ	33	● 112 栗林 剛 Honda EGLレーシング
12	34 ● 84 澤村 元章 磐田レーシングファミリー	35	● 38 原田 洋孝 R.S.ガレージハラダ姫路	36	● 73 久保山 正明 Honda浜友会浜松エスカルゴ
13	37 ● 45 今津 比呂志 プラスワン MCRT	38	● 54 飯田 将人 Honda緑陽会熊本レーシング	39	● 63 中山 英樹 Teamガレージコンプライト
14	40 ● 43 中山 睦生 ナカキ ホンダ	41	● 360 水澤 保 山科カワサキKENRACING	42	● 53 西脇 卓也 Team GTMM
15	43 ● 59 大岡 友明 チーム カナヤ	44	● 47 大西 博規 ベガススポーツKM II & シーテック		

*Rマークの車は、コースレコードを更新しました。従来のレコードタイムは 2'07.295
●印/国内競技規則ロードレース競技規則15-2.8により、決勝出走を認めた。

(表面から続く)

対してダンロップ勢の雄、ゼッケン1をつける中須賀克行は、開幕戦筑波でのアクシデントで頸椎6番目のきょく突起を骨折。今回は痛みをこらえながらも必死の力走を見せた。中須賀は予選タイヤを使用し、自己ベストを記録しフロントロウを確保した。「とにかく序盤から食らいついていくしかないですね。ベストを尽くしてチャンスを切り開きたい」と中須賀。開幕戦筑波のウイナー亀谷長純は、予選タイヤを使用しなかったものの、こちらも自己ベストをマークしているがアベレージでは苦戦している。予選ではタイムを出してくと見られていた伊藤は6番手と今ひとつの仕上がり。事前テストではマシントラブルが発生しており、その影響を引きずっているようだ。

決勝は、秋吉がどれだけのペースで走るかによって、レース展開が決まってくるだろう。2分6秒台に入る走りをするならば、昨年の第5戦鈴鹿のような独走になり、ペースが遅ければ酒井、山口がついていこう。中須賀、亀谷も食らいついていきたいところだ。伊藤もマシンが決まってくればトップ争いに加わってくるはず。いずれにせよ勝利のカギは秋吉が握っていると言えるだろう。

[佐藤寿宏]



予選3番手は中須賀克行



ポールポジション秋吉耕佑(中)、酒井大作(右)、中須賀克行

PolePosition 秋吉 耕佑 2'06.488

「練習走行からセットアップを確実に進めていくことを考えていたので、車体とエンジンのバランスがよくなってきた。しかし、まだまだ始まり始めたばかりで、煮詰めていけば、今回の目標だった5秒7くらいは出せると思う。ただ、自分もチームも予選のタイムより決勝に向けてのオートバイ作りを目指しているから、まだまだセットアップの余地はたくさんある。決勝レースでは今日くらいのペースでいければ…(!!周囲一同呆然)」

2ndPosition 酒井 大作 2'07.174

「ずっと決勝を見据えてセットアップ中心に行き、確実に進んでタイムもまとってきたのでアタックしてみました。(前戦の筑波でダメージを負った)頭は問題ないが、昨年の鈴鹿で強打した左の肩甲骨と肩の靭帯断裂したところが、骨に異常はないが動きが悪く、先週のテストでは痛みがあった。今はずいぶん治まってきた。秋吉さんのように6秒台は出せないと思うが、決勝はできるだけ7秒台を刻めるように、自分のパッケージの中でベストを尽くすだけです」

3rdPosition 中須賀 克行 2'07.204

「決勝用タイヤを選択するため、セッティングを詰めながらの走行だった。Q3は予選用タイヤを使ったのですが、6秒台にかすればいいな、と思っていたので、目標タイムに届かず悔しいですね。(前戦の筑波で)頸椎6番目のきょく突起を骨折し、痛みはあるが決勝は大丈夫。レースで7秒台を刻むのは難しい状況だが、できるだけ自分のベストを出したい。去年のアベレージを考えると8秒台をキープすれば、最後の方にはチャンスが見えてくるかな。あきらめずに最後まで頑張りたい」